

2009年11月28日勉強会議事録

課題本 岡本薫『世間さまが許さない！―「日本のモラリズム」対「自由と民主主義」』

発表者：十河晃（1章～2章）、安達（3章～5章）

出席者：嶋田・安達・十河晃・泉本・中山・古川・十河祐・久富

記録者：久富

第一章

○「日本のモラリズム」と「自由と民主主義」の違いを確認

⇒ルールとモラル、どちらを優先すべきか・・・

| 日本のモラリズム | 自由と民主主義 |
|--|---|
| 価値観で判断する (概念も制度も同一視する) 価値観・・・同じ 内心・・・同質性の範囲内で自由 行動・・・価値観と内心によりおのずと行動も決まる | 内心と制度を区別する 価値観・・・別々 内心・・・別々 行動・・・ルールでしぼる |

○「絶対的に優れた民族」について

そもそも作者は“民族”は認めるのか？という疑問が出、それについて話し合った。

- ・ たたとえば火星など他の惑星の生き物の存在と比較すれば可能では？
- ・ イタリア人・フランス人はラテン系・ゲルマン系でくることができるとは民族とするのか。
- ・ ただ多様性を強調するために、文化が多様であることを前提としてしまっている。
- ・ 相容れないものがあるところから違いが生まれる。ただ差異があるというだけでは不十分では。

では、文化は相容れないものなのか、本質的には同じものなのか？という疑問には、

- ・ 文化の中にも相容れるものと相容れないものがあるのでは？
- ・ 本質的に同じかどうかは、“人間”として考えたとき、まったく違う生態系と比べれば同じものとして考えられるようなものなのか。
- ・ 文化は一括りにはできないのでは？階層・濃淡・色々な側面から見る必要があるのでは。

という意見が出た。文化は積み木のイメージであるとの意見も出た。そうすると、「日本のモラリズム」と「自由と民主主義」は絶対的に対立するものなのか？どこかで共通した部分はないのかという疑問が出た。

二章

○メンバーが語ってくれた法学生が運営する相談所の話

学生の自治で運営していたところ、次第にだれて麻雀、喫煙の場となる・・・

これではいけないと目標設定をすることになった。相談者さんのためになるような運営をしようと意識を高く持ったが、自分たちも楽しめるものに行き着いてしまう。そこでモラルを良くするためのシステムを作ろうとした。システムの方向性を協議・・・

→日本的モラリズム・・・モラルを高める・システムでしぼる・モラルでしぼる

→自由と民主主義（価値相対主義）・・・行動のみをしぼる

結果、ただ行動をしぼるだけではなくモラルを高めていきたいということになった。しかしモラルでしぼるということは、やらない奴はいじめ、圧力、村八分の対象となる可能性も。日本人のモラリズムの複雑さ。日本人のモラリズムに挑んだ。。

○童話の話

本文中に取り上げられていた童話について、日本ではハッピーエンドであることが、日本的モラリズムと関係があるのではないかという意見が出た。

⇒外国の価値相対主義では、豚を食べたいおおかみの存在を認めなければならない。だから、そういう存在に気をつけなければならないという警告を含んだラストになる。しかし、日本では反省するという時点で、内心で認められる＝行動も制限されるので許されるという結果になるのでは。

- ・ 外国とのラストの違いについて、日本では“世間様”を意識して変えたとは言えないのでは。ただじっくりいかなかったから改ざんしたのだろうという意見も。
- ・ 無意識で変えたとなるとなおさら“世間様”が組み込まれていたと考えられないか。という意見が出た。

三章・四章・五章

・ 佐伯先生の「もうやめる！」と「ゆるさない！」の対比

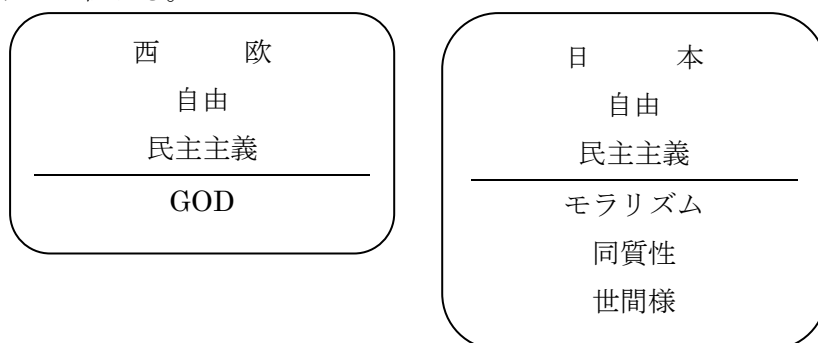
「もうやめる」と「ゆるさない」について、問題意識は似通っている。しかし「もうやめる」がどうすれば保守に立ち戻ることができるのかを書いているのに対し、「ゆるさない」は自由と民主主義を否定的に捉えてはいない。

- ・ 「自由からの逃走」(フロム)の話・・・自由がありすぎて逆に何もしない。自由であることがいやで拘束されるためにバイトや予定を入れまくる友人の話。
- ・ 選択することの責任について・・・なぜわが社を選んだのですかという問いに答えられない。誰かにこうしなさいと言われてれば自分の責任が半減するような感覚があるという意見も。
- ・ 民主主義とは・・・多数者＋支配⇒民主主義??

- ・ 民主主義とは国民ひとりひとりが主人公の主義。一人ひとりが主人公であるならば、多数者が多数者となり得る時はどんな時？という疑問に、それは結果がでたときに初めてわかるのではないかという意見が出た。

○なぜ日本人がこうなっているのか

- ・ 島国で人の移動があまりなかったからではという意見に、渡来人との交流はあったろうという意見も。
- ・ 心（内心）の問題を“みんな”と捉えてしまうことが大きいのでは。
- ・ 子どもの叱り方について⇒日本では近所の人も子育てに参加するので、小さいころから世間様に対しての認識が備わるのでは。現在は地域コミュニティが崩壊しており、近所の人とのつながりが薄くなったが、叱り方だけは変わっていないのでギャップが生じる。
- ・ 具体的にではなく、抽象的に考える。たとえばキリスト教は明文化されている教義がある。聖書や教会で明確に教えられるが、日本では教典があるわけではなく、口伝えによってモラルが伝わる。



○自由と民主主義（価値相対主義）においてモラル違反はあり得ない

《矛盾》自由と民主主義の安定のためにはモラルの共有が必要。

（最奥）モラル———価値観———内心——⇒⇒⇒行動（表層）

- ・ 日本のモラルは内心まで支配し、内心と行動はイコールになる。内心に共感できれば行動が違っていても（ルールから外れていても）OK。
- ・ 西洋のモラルは内心と行動が違っていても OK。しかしモラルだけは共通している??

○「ルールを守ろう」というモラル感覚は全国民が共有することについて

モラル感覚とは昔の慣習をひきずるものであるもので、現在のモラルと乖離してくるのでは。

○なぜ官僚に依存するのか

対等（庶民）から出るとなぜお前だけがとなる⇒世間様院も誰が上に立つのかと考えると共産主義と変わらないような気がするという意見が出た。